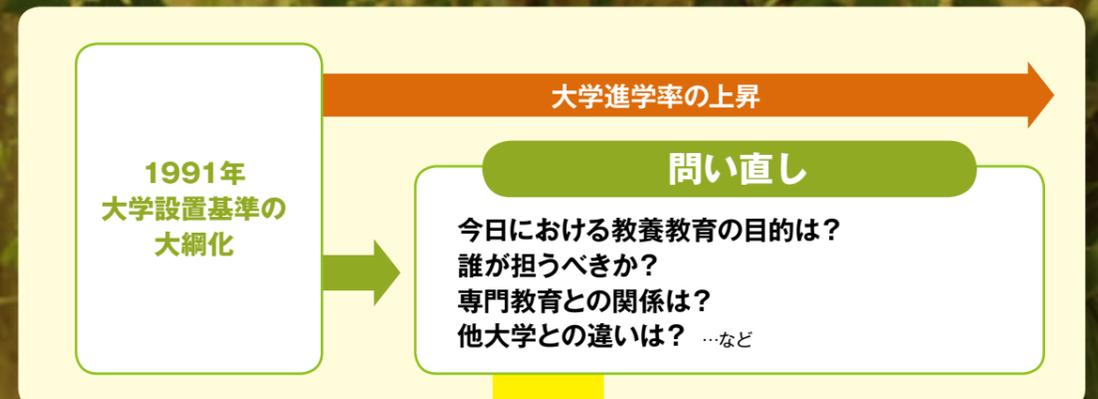


[特集]

“自らを成長させ続ける装置”を埋め込む 教養教育の現在

高等教育がユニバーサル化の段階を迎え、
 学生の実像、社会における「大卒」の意味が大きく変わる中、
 教養教育の果たすべき役割があらためて問い直されている。
 その議論が、学士課程における教養教育の位置付けや中身、手法にも変化をもたらしている。
 エリート的人材の素養、人文・社会・自然の3分野の均等履修という旧来の概念を乗り越え、
 実用的スキル修得の次元にもとどまらない現代の文脈における「教養」とは何か。
 生涯にわたって機能する装置として、
 自らを成長させ続ける姿勢と能力を一人ひとりの内に埋め込む、
 そんな教養教育こそが求められているのではないか。



近年の課題・動向

自らを成長させ続ける姿勢と能力を修得し、
 他者と協働できる人材を育成するために

- 1 学士課程中での統合的な位置付け
- 2 教育体制の変更
- 3 継続的な履修
- 4 他の専門分野との交流
- 5 自学ならではの特色の反映

…など

オピニオン	教養教育のあり方	共栄大学 藤田英典氏→ p.4	1 2 3 4
オピニオン	教養教育の再構築と創造	聖心女子大学 杉原真晃氏→ p.7	5
事例 ①	教養教育と専門教育の統合	立教大学→ p.10	1 3 4 5
事例 ②	学部学科混成のオムニバス授業	武蔵野大学→ p.13	2 4 5
事例 ③	現代的文脈のリベラル・アーツ	東京女子大学→ p.16	2 5
事例 ④	深い専門性を支える教養教育の構築	東京理科大学→ p.18	2 3 5